

浄水場建設の説明会(6/18)の報告

2018年6月18日に新しい浄水場建設の説明会が開かれました。質・量・料金など沖縄本島との格差をなくす水道広域化について、参加者のみんなが「ありがたい事業」だと賛同しました。しかし、浄水場建設地の選定や、飲み水が増えるわけではないことについて、疑問や意見が活発に出され、もう少し時間をかけて、再検討しようということで、この日の説明会は終了しました。説明会で上がった問題点などを報告します。

問題点1 より質の高い水になるが、飲み水が増えるわけではない

新しい浄水場ができれば、最新のろ過装置で、より安全な質の高い水を造れるようになります。しかし、飲み水が増えるわけではなく、むしろ1日に浄水を造れる能力は、627 m³から370 m³に落ちるということで、長年、渇水に苦しみ、断水を経験している住民にとっては、飲み水の「質」より「量」の確保への疑問や提案が出ました。県の説明では、新浄水場完成後の渇水への対応は「可搬型の海水淡水化装置」を持って来て随時対応すること。住民からは、それであれば、「新しい浄水場建設よりも、海水淡水化施設を増強して飲み水を増やす方が先ではないか？水をより綺麗にするための新しい浄水場の建設は、その後からでもいいのでは？」という提案が出され、県側は検討事項の1つとして考えてみると答えました。ただ、海水淡水化施設の排水の海への影響を心配する声もあり、慎重に判断する必要もあります。ちなみに、阿嘉島は、今回の事業で1日の浄水能力が290 m³から440 m³に増えます。

問題点2 阿真ビーチ周辺の自然や景観の損失が心配

浄水場建設予定地が、すでに「阿真キャンプ場」で進められていることに、多くの疑問や意見が出ました。島の中でも自然が豊かで、観光客や住民の思いも強い場所。「立地条件や法令、取得しやすい土地というだけで決めてほしくない」「島にとって自然は大事な観光資源、国内外から観光客が訪れる。島の自然は今や世界の宝。子や孫に残したい。」という思いや「排水の水質は本当に大丈夫なのか」という自然への負荷や影響を心配する声も上がりました。予定地には、鳥や蝶などの貴重な生きものが生息し、排水が予定される川の河口は、常時堆積している砂が絶妙な自然のろ過装置となって富栄養化した川の水を浄化し、ビーチのウミガメや内海のサンゴを育んでいる、島の自然にとって非常に重要な場所です。もし、そこに浄水場が建設されれば、ケラマブルーの海も、ウミガメやサンゴも失ってしまう可能性があるのです。飲み水が増えるわけではない、質を高めるだけの浄水場のために失う代償としては、大きすぎる島の宝です。

結果 高月山の浄水場は根本的に生かせないそうです

自然を壊してまで新たに開発するのではなく、まずは「高月山の浄水場を何とか生かせないのか」という意見も多く出されましたが、内部の浄水装置はすべて取り替える必要があり、最新のろ過方式だと建物に入りきらない、入れるために建物を高くすると、ヘリポートや環境省の規制にかかるということで、根本的に難しいということ。「新しく広い用地1カ所で建設するのではなく、高月山の浄水場と、足りない分をどこか小さな土地で補って、2カ所で稼働するのは？」という提案もありましたが、それも難しいとのこと。廃止後の高月山の浄水場について、村役場は、津波などの災害時の避難場所にする計画だそうです。

課題 住民も協力して候補地を探すことになりました

他の候補地はないのかと、さまざまな意見が出ました。「座間味港西側のテニスコート場」は港湾課、「ダム公園」は河川課から許可が下りず、ダム下流の「郵便局裏」は地権者がたくさんいて土地の取得が困難との答え。阿真キャンプ場の予定地は広大で地権者が民間1人だから取得しやすいというような、そんな安易な理由で貴重な自然を失うのは納得できないという声も。「もっと候補地探しや交渉に努力してほしい、住民も協力するから」と次々に声が上がりました。港湾課については、村の話では、許可が下りるには4.5年かかるため、事業期間内に施工できなく可能性もあるとのこと。できるだけ、自然や景観を損なわず、浄水場建設に適した土地は、どこかないか、県と住民が一緒になってみんなで探すことになりました。島の宝を失わず、よりよい事業をしていただけるよう、みんなで協力して実現させましょう！